

[成果情報名]秋まき無加温越冬栽培で6月切りできるトルコギキョウの品種選定

[要約]秋に播種、定植し、翌年6月に開花させるトルコギキョウにおいて、3重被覆した無加温越冬栽培では、8品種供試した中で、「ボレロホワイト」、「リネーションピンクピコティー」および「リップルフレームバイオレット」の3品種が適する。

[キーワード]トルコギキョウ、秋まき、無加温、越冬栽培、6月切り

[担当]秋田農技セ農試・野菜・花き部・花き担当

[代表連絡先]電話 018-881-3330

[区分]東北農業・野菜花き（花き）

[分類]技術・参考

[背景・ねらい]

トルコギキョウは、5、6月のプライダルシーズンに高単価出荷が見込めるので、加温ハウスに早生の花形の良い白花色の八重咲品種「ピッコロサスノー」等が栽培されていたが、暖房費の高騰によりこの作型は減少した。そこで、秋まきの無加温越冬栽培で6月切りに適する品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 9月上旬播種の10月下旬定植の保温栽培により、秋まき無加温越冬栽培が可能である（図1）。
2. 「ボレロホワイト」は、6月中旬切りができ、切り花長80cm以上の2Lの秀品率が高く、秋まき無加温越冬栽培に適する白花色の八重咲品種である（表1、2、3）。
3. 「リネーションピンクピコティー」は、6月下旬切りができ、2Lの秀品の率が高く、秋まき無加温越冬栽培に適するピンク覆輪花色の八重咲品種である（表2、3）。
4. 「リップルフレームバイオレット」は、6月中旬切りができ、切り花長70cm以上のLおよび2Lの秀品率が高く、秋まき無加温越冬栽培に適する紫覆輪花色の一重咲品種である（表2、3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 内張、トンネル、不織布を保温資材に用いた秋まき無加温越冬栽培において（図1）、平均収穫日6月25日より前、切り花長70cm以上、有効花蕾数10個以上の秀品率60%以上となる品種を秋まき無加温越冬栽培の適品種とした。
2. 選定した品種は、秋まき無加温越冬栽培用に県内の生産者が活用できる。
3. 選定した品種は、本試験の耕種条件下において適する品種である。

[具体的データ]

表1 2006年秋まき無加温越冬栽培における生育特性

品種	花形	花色	切り花長 (cm)	分枝数 (本)	有効花蕾数 (個)	平均 収穫日	判定 ^z	理由
ホレホイト	八重	白	103.1	6.5	20.7	6月18日		
華雪	八重	白	70.6	4.2	14.3	6月29日	×	草丈低、収穫日遅い
ワグオスノ	八重	白	104.1	5.6	20.6	7月2日	×	収穫日遅い
エロホイト	八重	白	97.0	5.1	23.8	7月2日	×	収穫日遅い
ピッコオスノ(対照)	八重	白	97.4	5.1	19.0	7月1日	-	

^z : 適品種として選定、×:不適品種

表2 2007年秋まき無加温越冬栽培における生育特性

品種	花形	花色	切り花長 (cm)	有効花蕾数 (個)	収穫 始期	平均 収穫日	収穫 終期
ホレホイト	八重	白	95.4	18.2	6月15日	6月20日	6月28日
リネーション [®] ソク [®] コティ	八重	ピンク覆輪	92.5	17.5	6月17日	6月23日	7月1日
リップル [®] フルム [®] イレット	一重	紫覆輪	77.1	15.7	6月5日	6月13日	6月21日
雪ぼたん	八重	白	83.4	15.8	6月16日	6月23日	7月3日
ニューリネーション [®] ホイト	八重	白	86.5	14.6	6月8日	6月15日	6月27日
ワグオスノ	八重	白	73.3	15.6	6月21日	6月29日	7月5日
ピッコオスノ(対照)	八重	白	67.3	11.2	6月29日	7月5日	7月9日

表3 2007年秋まき無加温越冬栽培における品質特性

品種	収穫率 ^y (%)	2L品率 ^z (%)	L品率 ^z (%)	M品以下率 ^z (%)	秀品率 ^y (%)	判定 ^w	理由
ホレホイト	72.2	69.4	2.8	0.0	72.2		
リネーション [®] ソク [®] コティ	72.2	71.4	0.0	0.8	61.1		
リップル [®] フルム [®] イレット	66.7	36.4	29.2	1.2	63.0		
雪ぼたん	58.3	47.2	8.4	2.7	55.6	×	茎折れ多い
ニューリネーション [®] ホイト	33.3	30.6	2.7	0.0	25.0	×	収穫率低い
ワグオスノ	66.7	2.8	58.3	5.6	52.8	×	収穫遅い
ピッコオスノ(対照)	69.4	0.0	16.7	52.7	16.7	-	

^z2L品率およびL品率はそれぞれ定植数に対する切り花長80cm以上および70cm以上の割合

^y定植数に対する2L,L品で花蕾数10個以上の割合

^w : 適品種として選定、×:不適品種

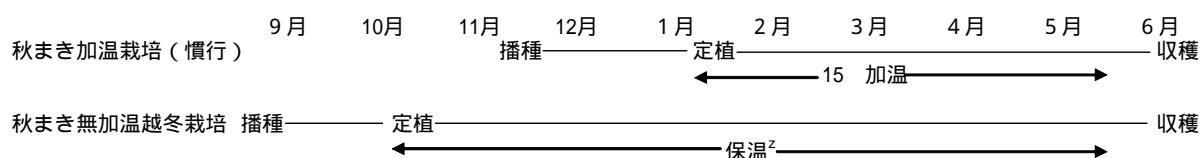


図1 慣行の秋まき加温栽培と秋まき無加温越冬栽培の作型

^z 保温管理の詳細を耕種概要に示す。

耕種概要：播種：9月4日、定植：2006年：10月24日、2007年：10月22日

保温：不織布（定植後～2月上中旬べた掛け）

内張（11月中下旬～4月下旬）

トンネル^y（12月上旬～2月上旬閉、2月上旬～4月中旬開閉）

施肥量（成分kg/a）：

無機肥料（窒素：リン酸：加里＝1.4:2.7:1.4）

有機肥料（窒素：リン酸：加里＝2.1:3.0:1.5）

菌体肥料（微生物肥料）（30kg）

栽植密度：10×10cm 6条植（2条植えて1条空け）

株数：36株/品種

^y2007年はトンネル（11月中旬～3月上旬閉、3月上旬～中旬開閉）

穴あきトンネル（3月中旬～4月下旬）

[その他]

研究課題名：花きの省力・低コスト安定多収技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2005～2008年度

研究担当者：間藤正美・佐藤孝夫・山形敦子